



GENERATIVE STUDIES



生成学

生成構造学・生成認知学

生成そのものを研究する新たな学術体系





WHAT IS GENERATIVE STUDIES

生成学とは何か

生成学は、人間・生命・自然・認知・関係・社会・制度・AIなどが、どのように生成され、変容し、つながっていくのかを研究する学問です。

問い

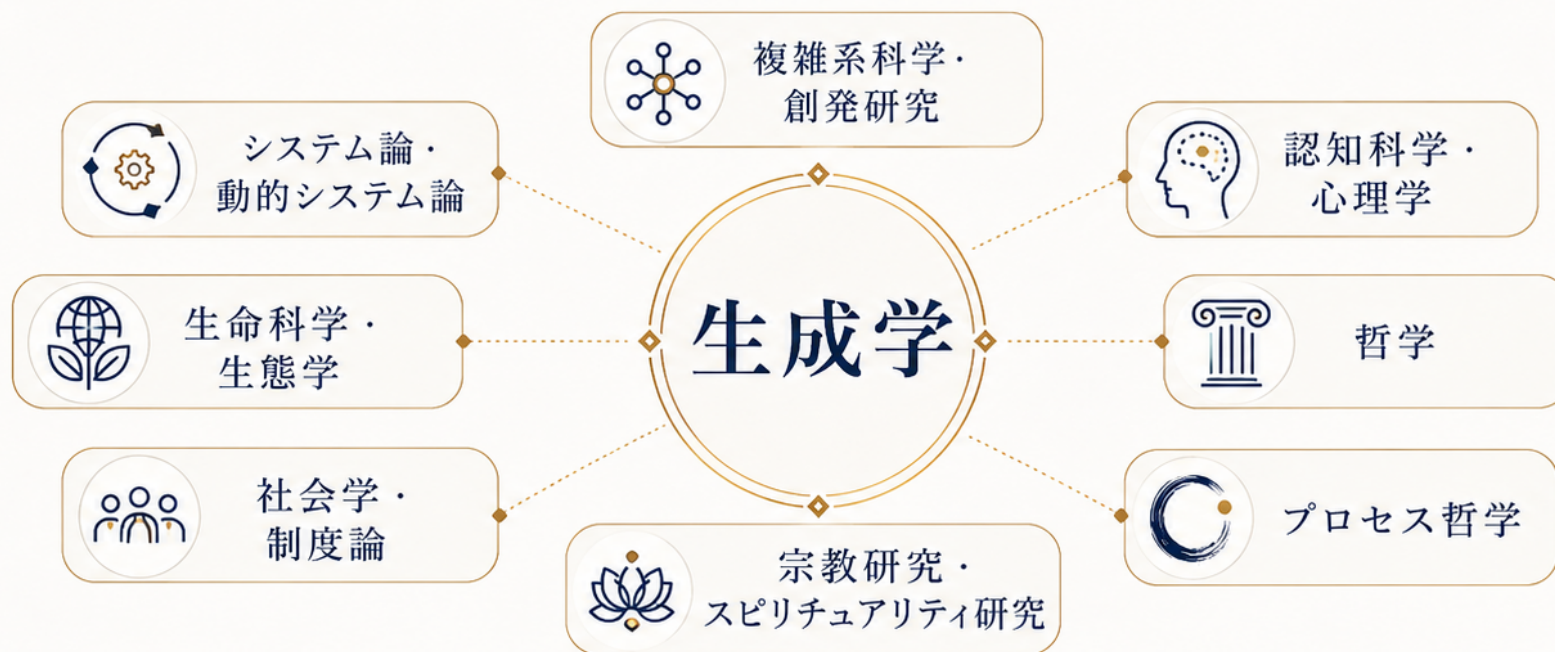
それは、どのように生成されたのか



現在の現象だけでなく、その成立条件・過程・次の生成までを研究する。



近接する学術領域

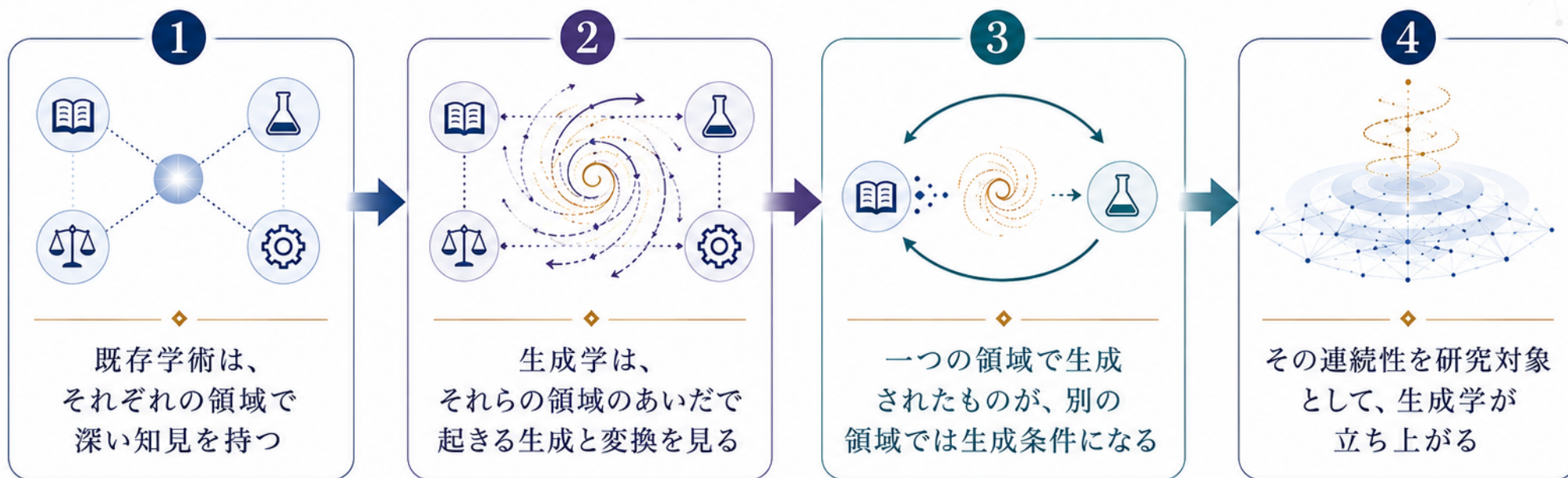


多くの学術領域と接続するが、そのいずれか一つに属するものではない。



WHY A NEW FIELD EMERGES

なぜ新たな学術として立ち上がるのか



生成学の固有性は、学術領域間の生成連続性を一つの対象として扱う点にある。



INTERNAL SYSTEM

生成学の内部体系

生成学

生成そのものを研究する上位学術体系

生成構造学

生成の構造・関係・固定化・反転・再編成を研究

生成認知学

認知の形成・接続・編み上げ・更新を研究

生成構造論

基層生成配列

代理基層化

基盤化の反転

階層間生成変換機構

ミクロとマクロの合致点

生成認知論

基層生成配列認知

次元往還能力

点的認知

編み上げ構造

構造強度



GENERATIVE STRUCTURE

生成構造学・生成構造論

◆ 生成の内部にある構造を明らかにし、認識・制度へとつながる原理を解明する ◆

◆ 生成構造学とは

生成の過程に内在する構造を対象とする学問です。
モノや事象が『どのように生じ、変化し、安定し、
再構成されるのか』という内部構造を明らかにします。

配列

差異

関係

階層化

循環

固定化

反転

再編成

◆ 生成構造の流れ（例）



生成構造論

基層生成配列

代理基層化

基盤化の反転

階層間生成変換機構

ミクロとマクロの合致点



生成認知学・生成認知論

❖ 生成認知学：

認知がどのように形成され、編み上がるのかを研究する

- 感覚・経験・記憶・感情・知識・関係が接続される
- 一点と全体構造の往還の中で理解が更新される

❖ 生成認知論

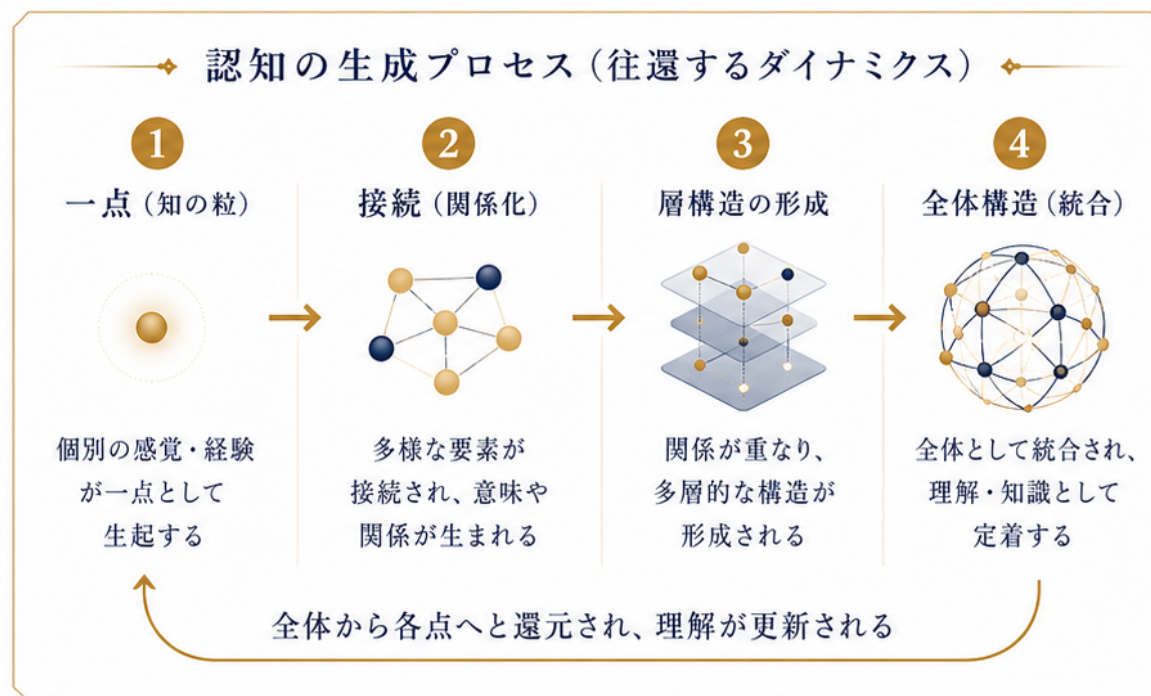
基層生成
配列認知

次元往還
能力

点的認知

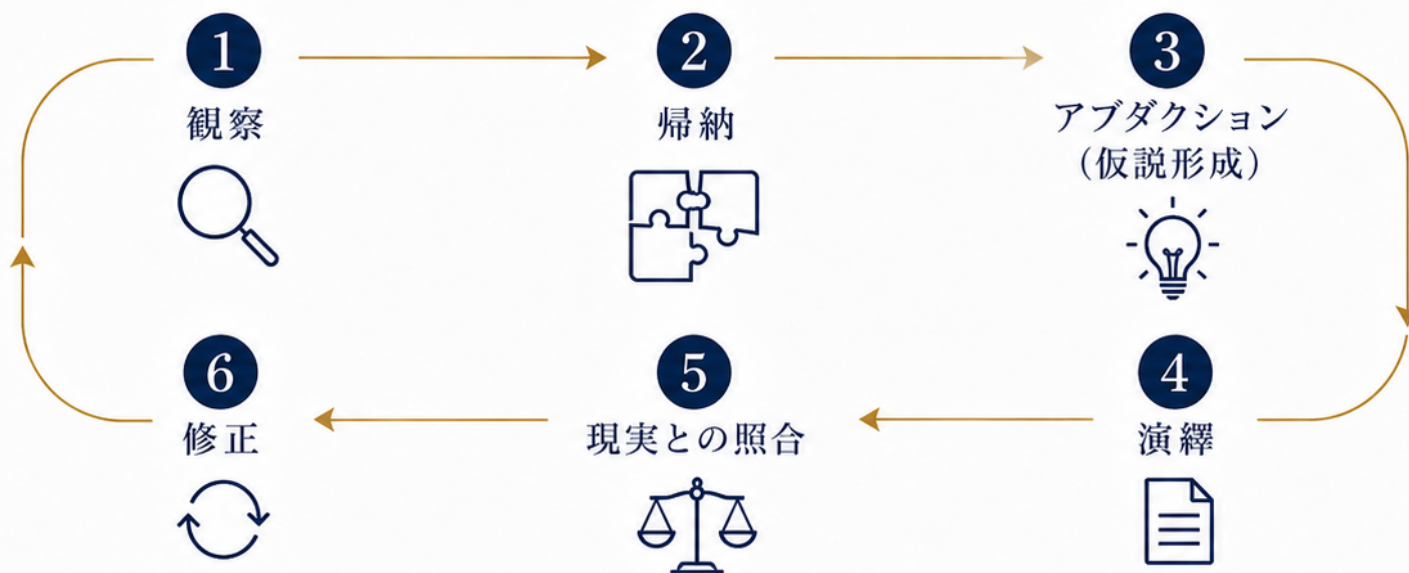
編み上げ
構造

構造強度





生成学の研究方法



異なる領域の事例を照合しながら、生成構造を仮説化し、更新し続ける。

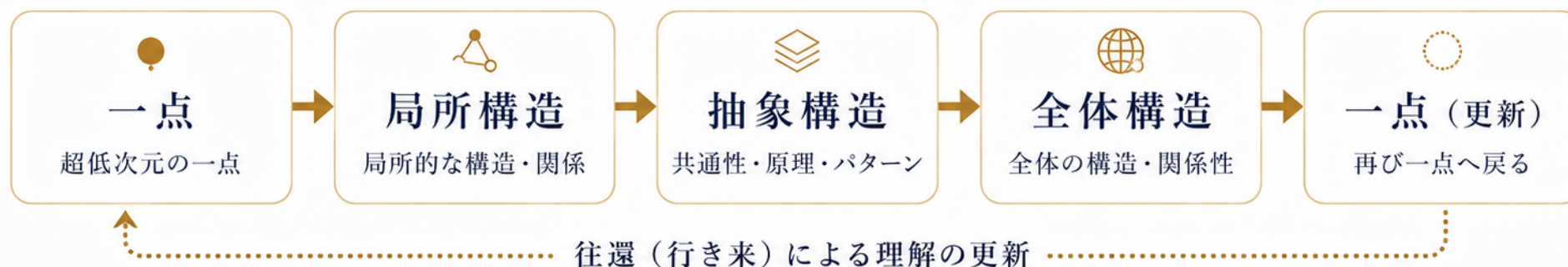




DIMENSIONAL SHUTTTLING CAPACITY

次元往還能力

次元往還能力は、異なる階層を往還しながら、生成構造の合致点を捉える認知能力である。



- 1 超低次元の一点から、局所構造・抽象構造・全体構造までを往還する認知
- 2 事実と関係の筋を保持しながら、行き来する
- 3 再び一点へ戻り、理解を更新する





MICRO-MACRO CONVERGENCE POINT

ミクロとマクロの合致点

定義

多くのミクロ要素が、局所構造化・抽象抽出を経て、一つのマクロ単位へ変換される地点。



◆ 合致点では、下位階層の多数が、上位階層の一単位へ変換される。

◆ その1は、次の階層では新しい0地点となる。

◆ ミクロとマクロの合致は、基層生成配列認知・代理基層化・基盤化の反転とも深く関わる。



ミクロの関係の筋が、マクロの一単位の中に保持される。



生成学は社会とどうつながるのか



生成学は、個人から制度、文化、技術まで多様な社会領域へ接続していく。



対話法から会議設計への展開



生成学は、既存の対話法を否定するのではなく、補完し、より深く豊かな対話と会議を実現する。



AI, PEACEBUILDING & CIVILIZATION

AI設計・平和構築・文明論への展開



生成学は、認知・制度・共同知性の再設計を通して、社会の長期的変化を捉える視座へ開かれている。